

## XI. 一般外来 管理指導医：山本 恒彦

### 1. 研修目標

初診患者の診察、及び慢性疾患患者の継続診察を一般外来において実践するために、症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診察を行うことができる外来診察の基本的臨床能力を身に付ける。

### 2. 研修方略及び行動目標

#### 研修内容

一般外来研修は、2年目の小児科研修中に並行研修として行うとともに、地域医療研修中に並行研修として実施する。一般外来研修の実施記録簿に記録を付けること。

#### 1) 準備

- ・外来研修について、指導医が看護師や事務職など関係スタッフに説明しておく。
- ・研修医が外来診療を担当することがある旨を病院の適切な場所に掲示する。
- ・外来診察室の近くに文献検索などが可能な場があることが望ましい。

#### 2) 導入（初回）

- ・病棟診療と外来診療の違いについて研修医に説明する。
- ・受付、呼び入れ、診察用具、検査、処置、処方、予約、会計などの手順を説明する。

#### 3) 見学（初回～数回：初診患者および慢性疾患の再来通院患者）

- ・研修医は指導医の外来を見学する。
- ・呼び入れ、診療録作成補助、各種オーダー作成補助などを研修医が担当する。

#### 4) 初診患者の医療面接と身体診察（患者 1～2 人／半日）

- ・指導医やスタッフが適切な患者を選択（頻度の高い症候、軽症、緊急性が低いなど）する。
- ・予診票などの情報をもとに、診療上の留意点（把握すべき情報、診療にかかる時間の目安など）を指導医と研修医で確認する。
- ・指導医が研修医を患者に紹介し、研修医が診療の一部を担当することについて承諾を得る。
- ・時間を決めて（10～30 分間）研修医が医療面接と身体診察を行う。
- ・医療面接と身体診察終了後に、研修医は得られた情報を指導医に報告（プレゼンテーション）し、指導医は報告に基づき指導する。
- ・指導医が診療を交代し、研修医は見学や診療補助を行う。

#### 5) 初診患者の全診療過程（患者 1～2 人／半日）

- ・上記 4) の医療面接と身体診察の終了後、その後に行う検査、治療、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーションなどについて指導医から指導を受ける。
- ・指導医の監督下に、検査や治療のオーダー、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーション依頼などを行う。
- ・前記の診療行為のうち、結果が当日判明するものについては、その結果を患者に説明する。
- ・必要な処方薬を指導医の指導のもとに処方する。
- ・次の外来受診日を決め、それまでの注意事項などについて指導する。

#### 6) 慢性疾患を有する再来通院患者の全診療過程（上記 4)、5) と並行して患者 1～2 人／半日）

- ・指導医やスタッフが適切な患者を選択（頻度の高い疾患、病状が安定している、診療時間が長くなることを了承してくれるなど）する。
- ・過去の診療記録をもとに、診療上の留意点（把握すべき情報、診療にかかる時間の目安など）を指導医とともに確認する。
- ・指導医が研修医を患者に紹介し、研修医が診療の一部を担当することについて承諾を得る。
- ・時間を決めて（10～20 分間）研修医が医療面接と身体診察を行う。
- ・医療面接と身体診察の終了後に、研修医は得られた情報を指導医に報告（プレゼンテーション）し、報告内容をもとに、その後の検査、治療、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーションなどについて指導医から指導を受ける。
- ・指導を踏まえて、研修医が検査や治療のオーダー、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーション依頼などを行う。
- ・前記の診療行為のうち、結果が当日判明するものについては、その結果を患者に説明する。

- ・必要な処方薬を指導医の指導のもとに処方する。
- ・次回の外来受診日を決め、それまでの注意事項などについて指導する。

#### 7) 単独での外来診療

- ・指導医が問診票などの情報に基づいて、研修医に診療能力に応じて適切な患者を選択する。
- ・研修医は上記 5)、6) の診療過程を単独で行うこととするが、必要に応じて指導医にすぐに相談できる体制をとる。
- ・原則として、研修医は診察した全ての患者について指導医に報告（プレゼンテーション）し、指導医は報告に基づき指導する。

※一般外来研修では、研修医にどのレベルまでの診療を許容するのかについては、指導医が一人ひとりの研修医の能力を見極めて個別に判断する必要がある。

※どのような能力レベルの研修医であっても、診療終了後には必ず共に振り返りを行い、指導内容を診療録に記載する。

8) 研修スケジュールは、研修先に準じる。

### 3. 評価

1) 研修医は、ローテート終了時に一般外来研修の実施記録を研修医手帳に記録する。

## 第 4 章 診療科別研修プログラム 選択研修

### I. 形成外科 管理指導医：浅田 裕司

#### 1. 研修目標

形成外科は、主として身体表面の機能のみならず形態を維持・改善することを目的に、外科的手技を用いて治療することを専門とする。体表面の先天奇形、外傷、腫瘍切除後の再建などを幅広く行う。日本形成外科学会の認定施設であり、専門医となるための基本手技から高度な手術まで、形成外科のほぼ全体に渡る知識や手技の習得を行うことができる。傷を綺麗に治すための基本となる創傷治癒は、形成外科の基礎となる学問であるが、これはあらゆる外科学に共通するものであり、外科系各科の診療にも必要な知識と考えられる。

#### 2. 研修方略

##### 研修内容

2 年次の選択診療科として研修を行う。最初に、創傷の扱い方と形成外科的縫合法の習得を目指す。これらの上の段階として、形成外科専門医になるために必要な様々な皮弁などの手術を行っていく。研修スケジュールは下記のとおりである。

|   | 朝 | 午前        | 午後        | 夕方 |
|---|---|-----------|-----------|----|
| 月 |   | 病棟処置／外来陪席 | 病棟処置      |    |
| 火 |   | 病棟処置／外来陪席 | 手術        |    |
| 水 |   | 手術        | 手術        |    |
| 木 |   | 手術／病棟処置   | 病棟処置／褥瘡回診 |    |
| 金 |   | 病棟処置／外来陪席 | 手術        |    |

#### 3. 行動目標

##### (1) 経験目標

##### 1) 基本的な身体診察法

①創傷の状態を正しく把握する。